

安全データシート

作成日 2023 年 4 月 1 日

1. 製品及び会社情報

製品名	:	SF 培地
製品コード	:	02400
会社名	:	極東製薬工業株式会社
住所	:	東京都中央区日本橋小舟町 7 番 8 号
担当部門	:	営業学部
電話番号	:	03-5645-5664
FAX 番号	:	03-5645-5703
緊急連絡電話番号	:	03-5645-5664
推奨用途及び使用上の制限	:	細菌検査用培地

2. 危険有害性の要約

GHS 分類は、「3. 組成及び成分情報」、「9. 物理的及び化学的性質」、「11. 有害性情報」及び「12. 環境影響情報」に基づく。

GHS 分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	:	区分 2
急性毒性(経皮)	:	区分 1
皮膚腐食性/刺激性	:	区分 2
眼に対する重篤な損傷性	:	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:	区分 2(肺、中枢神経系、心血管系、全身毒性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:	区分 2(中枢神経系、心血管系)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)	:	区分 3
水生環境有害性 長期(慢性)	:	区分 3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	:	危険
危険有害性情報	:	・飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合は生命に危険 ・皮膚刺激 ・強い眼刺激 ・肺、中枢神経系、心血管系、全身毒性の障害のおそれ

- ・長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、心血管系の障害のおそれ
- ・長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

- ・粉じんを吸入しないこと。
- ・眼、皮膚、衣類につけないこと。
- ・取扱い後は、手、顔等をよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・保護衣/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

- ・飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。
- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
- ・直ちに医師に連絡すること。
- ・気分が悪いとき、皮膚刺激が生じた場合又は眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・特別な処置が必要である。
- ・口をすすぐこと。
- ・汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

廃棄

- ・内容物及び容器を認可された廃棄物処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名 : データなし

成分		化学特性 (化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度範囲 (含有量)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
アジ化ナトリウム	(1)	NaN ₃	26628-22-8	1.1%	(1)-482
りん酸水素二カリウム	(2)	K ₂ HPO ₄	7758-11-4	11%	(1)-452
りん酸二水素カリウム	(3)	KH ₂ PO ₄	7778-77-0	4.1%	(1)-452
塩化ナトリウム	(4)	NaCl	7647-14-5	14%	—

GHS の分類に寄与する成分 : (1)(2)(3)(4)

4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気の所に移し、鼻をかみ、うがいをさせる。処置後異常を感じた場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹼を用いてよく洗い流す。炎症を生じた場合は、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

飲み込んだ場合 : 水でうがいをする。処置後異常を感じた場合は、医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 粉末消火剤、水、炭酸ガス、砂等

使ってはならない消火剤 : データなし

火災時の特有の危険有害性 : 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

: 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理させれずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。こぼした場合は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 特になし

局所排気・全体換気 : 開封する場合、局所排気装置を使用すること。

注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに粉じんを発生させない。使用後は容器を密閉する。取り扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

安全取扱注意事項 : 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。

保管

技術的対策 : 特になし

安全な保管条件 : 吸湿しやすいので、密閉し、光を避け、室温で保管する。

混触禁止物質 : データなし

安全な容器包装材料 : HDPE、PP

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

	日本産業衛生学会	米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)	作業環境評価基準 (管理濃度)
(1)	—	Ceiling: 0.29 mg/m ³ Sodium azide Ceiling 0.11 ppm Hydrazoic acid vapor	—

設備対策 : 局所排気装置。取扱い場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具 : 保護マスク。作業者が粉塵にばく露される場合は、防塵マスク等の着用を検討する。

手の保護具 : 保護手袋。不浸透性の保護手袋を着用する。

眼、顔面の保護具 : 保護眼鏡、保護面

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
色	: うすい青～紫色
臭い	: 特有の臭い
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 該当しない
引火点	: 該当しない
自然発火点	: 該当しない
分解温度	: データなし
pH	: 該当しない
動粘性率	: 該当しない
溶解度	: 水に混和する
n-オクタノール/水分配係数	: 該当しない
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: 該当しない
粒子特性	: データなし
その他のデータ	: なし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: データなし
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし

危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)

分類根拠: ATEmix 計算結果が 45 mg/kg のため、区分 2 に該当。アジ化ナトリウムは、ラットの LD50 = 45 mg/kg(DFGOT vol.20(2003))。

急性毒性(経皮)

分類根拠: ATEmix 計算結果が 20 mg/kg のため、区分 1 に該当。アジ化ナトリウムは、ウサギの LD50 = 20 mg/kg(ACGIH(2001))。

急性毒性(吸入: 蒸気) : データなし

急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト) : データなし

皮膚腐食性/刺激性

分類根拠: 加方式による成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。アジ化ナトリウムは、ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用 4 時間後に腐食性を示し、6 匹中 3 匹が死亡したとの報告(DFGOT vol.20(2003))に基づく。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

分類根拠: 加方式による成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。アジ化ナトリウムは、皮膚腐食性が区分 1 なので、眼も「区分 1」とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性 : データなし

生殖毒性 : データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

分類根拠: 区分 1(肺、中枢神経系、心血管系、全身毒性)の物質を 1%以上含有するため、区分 2(肺、中枢神経系、心血管系、全身毒性)に該当。アジ化ナトリウムは、経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した 5 人の実験技術者の例(NTP TR.389(1991))、10~20g を摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例(NTP TR.389(1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例(HSDB(2009))などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起こし血圧低下を招くと記述されている(DFGOT vol.20(2003))。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例(ACGIH(2001))の所見として、肺水腫と脳水腫の記載がある。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣(DFGOT vol.20(2003))、ウサギで血圧低下と心臓障害(PATY(5th.2001))が記録されている。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

分類根拠: 区分 1(中枢神経系、心血管系)の物質を 1%以上含有するため、区分 2(中枢神経系、心血管系)に該当。アジ化ナトリウムは、ラットの 13 週間反復経口ばく露試験の最高用量(20mg/kg/day)で臨床症状として嗜眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊

死が観察された(NTPTR389(1991))。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量(10mg/kg/day)で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている(NTPTR389(1991))。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されている。なお、イヌの反復経口ばく露試験(1~10mg/kg/day)でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている(HSDB(2009))が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。

誤えん有害性 : データなし
その他の情報 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

分類根拠: 加算法による(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。アジ化ナトリウムは、藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)での96時間ErC50=348μg/L(AQUIRE, 2010)。

水生環境有害性 長期(慢性)

分類根拠: 加算法による(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。アジ化ナトリウムは、急性毒性区分1であり、急速分解性がない(直接測定(HPLC)による分解度:1%(既存点検, 2000))。

残留性・分解性 : データなし
生体蓄積性 : データなし
土壌中の移動性 : データなし
オゾン層への移動性 : データなし

13. 廃棄上の注意

製品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。なお、上記方法による処理ができない場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する
汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

国連番号 (1): UN1687
品名(国連輸送名) (1): アジ化ナトリウム
国連分類 (1): 6.1
容器等級 (1): II

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法	:	毒物類・毒物【アジ化ナトリウム】
航空法	:	毒物類・毒物【アジ化ナトリウム】
注意事項	:	輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法	:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号～第 2 号別表第 9)【9 アジ化ナトリウム】 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2 第 1 項、施行令第 18 条の 2 第 1 号～第 2 号別表第 9)【9 アジ化ナトリウム】 危険物・爆発性の物(施行令別表第 1 第 1 号)【4 アジ化ナトリウム、その他の金属のアジ化物】
毒物及び劇物取締法	:	毒物(法第 2 条第 1 項別表第 1 第 28 号、指定令第 1 条)【1 アジ化ナトリウム及びこれを含有する製剤】

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法	:	危険物第 5 類自己反応性物質(法第 2 条第 7 項別表第 1 第 5 類の項第 10 号、危険物令第 1 条第 3 項)【1 金属のアジ化物】
-----	---	---

16. その他の情報

特記事項なし

この SDS は、基本的な取扱いについて記述したもので、安全保証を意図して作られたものではありません。また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので取り扱いには十分注意してください。